

立命館大學白川靜記念東洋文字文化研究所
第七號抜刷

2013年7月発行

古今和歌集元永本の周辺における漢字

石 井 久 雄

古今和歌集元永本の周辺における漢字

石 井 久 雄

本誌第3号(2009年)所載「古今和歌集元永本における短歌表記の漢字」および第5号(2011年)所載「古今和歌集元永本における漢字」に続いて、本稿は、古今和歌集・1120元永3年伝源俊頼筆写・東京国立博物館現蔵本の周辺における漢字を、定量的に扱う。前2稿で確認したところは、漢字は、短歌一首における字数として見ると、最頻値で0字ないし1字の程度、平均値で2字程度であり、文字の延べにおける比率として見ると、和歌で6.8%、詞書でその3倍近い19.6%である、ということである。そのことをめぐって、本稿では、古今和歌集の古い形を想わせる高野切第一種・第二種・第三種について見、また、元永本と変わらない時期の筆写であると言われる伝藤原公任筆本について見る。

1—— 高野切の範囲

古今和歌集高野切第一種・第二種・第三種の名で知られる筆蹟は、扱う人によって多少異なる。すなわち、全20巻を能筆3名でどのように分担したかという推察については、異見がないようであるが、切を一覧することになると、入れたり入れなかったりし、それも、高野切であるか否かという見解の相違によるのではなく、発見・公開の前後や所有・複製の事情やにかかわっているように見える。いま手許で写真が見られる叢書類について、表1に対照する。増刷時に追加されることもあり、現状はさらに多いかもしれない。博物館・美術館の所蔵品・展覧会などで知られているものも、少なくないと思うが、ここでは、僅かに気が付いた『春敬コレクション名品図録』(1992年、飯島春敬監修、書芸文化新社)のもののみを加える。

表1の上軸が、高野切を複製している叢書名など、縦軸が、和歌の巻・国歌大観番号および所蔵者などである。軸上で叢書名・所蔵者に略称を用いるので、正式名称を表の末尾に添える。所蔵者は、叢書などで示されていなければ、ここで空白とする。表の最左欄の数字列は「収載巻・国歌大観番号」を示し、他の数字列は「叢書などの収載巻次・収載ページ」を示す。「上・中・下」の巻次も「1・2・3」とする。例えば、左上のあたりを読むと、高野切第一種に、巻一・1番・2番・3番歌の一連があり、五島美術館が所蔵していて、写真が日本名筆選1巻3～5ページ・日本名跡叢刊37巻45～47ページ……にある、ということになる。『春敬コレクション名品図録』のものは、「かな名蹟」の欄のあたりに「春敬」として掲載ページを示す。

古今和歌集元永本の周辺における漢字

表1 古今和歌集高野切の所見現状

(第一種)			所蔵	名筆選 二支社	名跡叢刊 二支社	かな名蹟 書芸文化	清雅堂 高野切	墨彩堂 高野切	書学大系 同朋舎
卷. 番号									
1. 1- 3	1. 4	3	五島美術館	1. 3- 5	37.45-47	4. 1- 4 4. 5- 6	1. 2- 5	1. 2- 5	15. 1- 3
1. 6- 8		8	三井文庫	1. 6- 9		4. 7-12	1. 6- 9	1. 6- 9	
1. 9- 10		10	遠山記念館	1.10-11	37.48-49	4.13-14			15. 4- 5
1. 12- 13		13	個人	1.12-13		4.15-16	1.10-11	1.10-11	
1. 19- 21		21	常盤山文庫	1.14-15		4.19-20	1.12-13	1.12-13	15. 6- 7
1. 25			前田育徳会	1.16		4.17	1.27		15. 8
1. 28- 32		32	個人	1.17-19					
1. 33						4.18			
1. 41- 44		44	服部美術館	1.52-55		4.21-26	1.14-17	1.14-17	
1. 46- 49		49	出光美術館	1.20-23	37.50-52	4.27-30	1.18-21		15. 9-11
1. 55			書芸文化院			春敬 52			
1. 62- 66		66	石橋美術館	1.24-27	37.53-55	4.31-36	1.22-25		15.12-15
1. 68						4.37-38	1.26	1.18-19	
9. 406			湯木美術館	1.28-30			1.28-31	1.20-23	15.16-18
9. 417			個人	1.31	37.56				
9. 417- 418		418	MOA美術館	1.32-33	37.56-57		1.32-33	1.24-25	15.19-21
9. 418			書芸文化院			春敬 52			
9. 419- 420		420	個人	1.56-57					
20.1069-1100			個人	1.34-51	37.15-30	45. 1-28	1.34-57	1.28-43	15.22-40
(第二種)			所蔵	名筆選 二支社	名跡叢刊 二支社	かな名蹟 書芸文化	清雅堂 高野切	墨彩堂 高野切	書学大系 同朋舎
卷. 番号									
2. 69- 73		73	個人	3.68-70					
2. 76- 77		77	個人	3.72			2. 2- 3	2. 2- 3	
2. 90- 91		91	梅沢記念館	3.73					
2. 92						16.13-14			
2. 95- 96		96	石水博物館	3.70-71					
2. 100- 101		101				16. 5- 6	2. 4	2. 4- 5	
2. 105- 109		109	五島美術館	3.74-76	28.87-89	16. 1- 4	2. 6- 9	2. 6- 9	
2. 115- 116		116				16. 7- 8	2.10-11	2.10-11	
2. 119						16. 9-10			
2. 120			北村美術館	3.76-77	28.90-91				
2. 121			書芸文化院			16.11 春敬 53			
2. 124			陽明文庫	3.78-79	28.92	16.12			
2. 125			服部美術館	3.79		16.15-16	2.12	2.12-13	
2. 127- 128		128	三井文庫	3.80-81			2.12-13	2.14-15	
2. 132			京都博物館	3.82	28.93	16.17-18			
2. 134			個人	3.83					
3. 135						16.19-20			
3. 136			個人	3.84					
3. 138			個人	3.86		16.23	2. 5	2.15	
3. 144			川崎市市民	3.85					
3. 147							2. 5		
3. 148			個人	3.86		16.24			
3. 157						16.22			
3. 158						16.21			
3. 159			永青文庫	3.87					
3. 167			徳川ミュージー	3.87					
3. 168			三井文庫	3.88-89					
5. 249- 313		313	個人	3. 2-41	28.13-50		2.14-53	2.16-55	16. 1-38
5. 249- 266		266	(部分)			16.25-40			
5. 270			林原美術館	3.89	28.94				
5. 298			個人	3.90					
8. 365- 405		405	毛利博物館	3.42-67	28.59-84		2.54-81	2.56-83	16.39-64

表1 古今和歌集高野切の所見現状 (承前)

(第三種) 卷. 番号	所蔵	名筆選 二玄社	名跡叢刊 二玄社	かな名蹟 書芸文化	清雅堂 高野切	墨彩堂 高野切	書学大系 同朋舎
18. 940- 942	逸翁美術館	5. 2	38.27		3. 2- 3	3. 2- 3	17. 1
18. 948- 950	徳川ミュージー	5. 3	38.28	10. 1- 2	3. 4		17. 2
18. 951- 953	個人	5. 4	38.29		3. 5		
18. 956	徳川ミュージー	5. 5	38.30		3. 6		17. 3
18. 963- 967	山種美術館	5. 6- 9	38.31-33	10. 3- 8	3. 6- 9	3. 4- 7	17. 4- 7
18. 968- 969				10. 9-11	3.10-11	3. 8- 9	
18. 970					3.12-13	3.10-11	
18. 971					3.14		
18. 977	書芸文化院			10.12 春敬 53			
18. 978- 980	藤田美術館	5.10-12	38.34-36	10.13-16	3.14-16	3.12-15	17. 8-10
18. 982	静嘉堂文庫	5.12-13					
18. 983- 984	香雪美術館	5.13	38.37				17.11
18. 985				10.17-18	3.17	3.16	
18. 986- 987	個人	5.14		10.19-20			
18. 991	個人	5.34			3.18		
18. 997-1000	個人	5.15-18	38.38-41	10.21-26	3.18-22	3.16-21	
19.1007-1010	個人	5.19-21	38.42-44	10.27-31	3.22-25	3.22-25	17.12-14
19.1011-1021	前田育徳会	5.22-28			3.26-32	3.26-32	17.15-21
19.1032-1033	出光美術館	5.29	38.45	10.33-34	3.32-33	3.34-35	17.22
19.1034-1035	個人		38.46				
19.1051-1052					3.40		
19.1053					3.41		
19.1054-1056				10.35-37	3.34-35		
19.1057-1066	東京博物館	5.30-33	38.47-50	10.39-46	3.36-39	3.36-39	17.23-26

叢書等 略称・詳細 (表の上軸, 左から)

名筆選	日本名筆選 高野切	1993年, 古谷稔解説, 二玄社
名跡叢刊	日本名跡叢刊 高野切古今集	1979年, 小松茂美解説, 二元社
かな名蹟	平安朝かな名蹟選集 高野切	1970年, 書芸文化院・書芸文化新社
清雅堂	高野切	1958年, 清雅堂
墨彩堂	高野切	1940年, かな名蹟全集刊行会編輯, 武田墨彩堂
書学大系	日本書学大系法書篇 高野切	1989年, 伊井春樹ほか著, 同朋舎出版
春敬	春敬コレクション名品図録	1992年, 飯島春敬監修, 書芸文化新社

所蔵者等 略称・詳細 (表の左軸近く, 上から)

服部美術館	サンリツ服部美術館
京都博物館	京都国立博物館
川崎市市民	川崎市市民ミュージアム
徳川ミュージー	徳川ミュージアム (旧・水府明徳会彰考館徳川博物館)
静嘉堂文庫	静嘉堂文庫美術館
東京博物館	東京国立博物館

表について、聊か注記する。詞書・読人・和歌等のしわけは前稿に準じ、一般的なものとほとんど変わらない。

第一種第9巻417番歌は、詞書が個人所蔵であり、読人・和歌がMOA美術館所蔵である。それに続く418番歌は、詞書がMOA美術館所蔵であり、和歌が書芸文化院所蔵である。

第一種第20巻は、一軸であり、定家系統諸伝本と比べて3首少なく、すなわち1077番歌・1095番歌・1098番歌を欠く。表では、一軸のまとまりで見たために、欠落を見えなくしてしまっている。

第二種第5巻全体を一軸で個人が所蔵している。ただし、和歌の順序に定家系統諸伝本と異なるところがあり、国歌大観番号のみで示すならば、次のようである。

249-252, 1118, 254-297, 299-305, 307, 306, 308, 298, 309-313

1118番歌としたものは、次のようであり、

9-1118 わかゝとのわさたもいまたかりあけぬにまたきもみつるかみなひのもり

元永本で次のように253番歌に並ぶものに似、他本の多くで253番歌左注に挙がるものに似る。

9-253 十月しくれもいまたふらなくに兼てうつろふかむなひのもり

9-1118 わかゝとのわさたのいねもからなくにまたきうつろふかみなひのもり

叢書等はこの一軸をたびたび複製し、平安朝かな名蹟選集は冒頭部分のみを取り上げている。

さて、第二種第5巻については、この一軸のほかに、270番歌・298番歌がそれぞれ断簡で伝わっていることが、問題である。すなわち、一軸のほうで当の和歌の部分に切り継ぎがあるわけではなく、したがって、断簡のほうは、この一軸から切り出されたものでなく、別に存在したものであることになる。298番歌では、詞書にも和歌にも異なるところがある。

一軸中 あきのうたとてよめる かねみのおほきみ

たつたひめ たむくるかみの あれはこそあきのこのはのぬさとちるらめ

断簡 あきのうた かねみのおほきみ

たつたひめ たむくるかみの あれはこそあきのこのはのちらさなるらめ

高野切第二種第5巻は、少なくとも2本があったと考えなければならない。下書きの一部が断簡で清書が一軸であるとか、逆に一軸が試作品ないし副本であるとか、想像のしようはいろいろにある。断簡2葉の間の関係も、一本から切り出されたか、元もと別個であったか、という問題を始めとして、考えようがある。しかも、この第5巻の問題は、高野切の全体に及ぶものである。例えば、第一種第1巻のものとして現在知られるものが、一本をなしていたということは、保証されない。

第三種18巻956番歌にも、問題がある。短歌一首を2行で記す高野切一般に対して、この断簡の1首のみは一行ずつが高さ半分程度の5行で記し、読人もそれに釣り合って記す。詞書も、別葉であるが、和歌と同様に一行が短い。この1首が恰も元もと色紙であるごとくである。字下げおよび改行を原状に倣い、また、参考のために964番歌をやはり原状に倣って、掲げる。

やまほうしの

もとにつかはしける

……以上一葉，字下げは推測

凡河内躬恒

18- 956 よをすてゝ

やまにゐるひと

やまにても

なほうきときは

いつちゆくらむ

……以上一葉，字下げは推測

つかさとけてはへりけるときによめる

たひらのさたふむ

18- 964 うきよにはかとさせりともみえなく

になとかわかみのいてかてにする

……以上参考

以上のような問題には、しかしながら立ち入らず、高野切の現在のものは、重複部分を除いて、一揃いのものであったと考えて先に進む。

高野切の歌数は、表1を集計すると、次のようである。

巻	合計	1	2	3	5	8	9	18	19	20
種		一	二	二	二	二	一	三	三	一
歌数	285	36	30	11	65	41	5	33	35	29

第一種合計70首，第二種147首，第三種68首であり，すべてで285首というのは，古今和歌集全体の1/4というところである。しかも，第三種18-971番歌は，伝わっているのは詞書のみであり，他の歌で，詞書・読人の一部または全部を欠くものがある。何が欠損しているかという問題は解決が困難であり，本稿ではともかくも現にあるものを見ることとする。

2—— 高野切の文字

高野切3種全体の文字の数量は，表2のようである。和歌全体の文字数は8923であって，高野切全体の文字数15103に対して59.08…%に当たり，和歌の漢字数は異なり5，延べ8，この延べは高野切全体の漢字延べ349に対して2.29…%に当たる。和歌の漢字延べは，和歌

表2 高野切の文字および漢字の総量

	合計	巻序	巻題	序文	詞書	読人	和歌	左注
文字全体	15103	71	27	-	4408	1188	8923	486
構成比率	100.0	0.4	0.1	-	29.1	7.8	59.0	3.2
漢字異なり	127	15	17	-	52	48	5	16
漢字延べ	349	71	27	-	129	97	8	17
構成比率	100.0	20.3	7.7	-	36.9	27.7	2.2	4.8
漢字比率	2.3	100.0	100.0	-	2.9	8.1	0.0	3.4
仮名延べ	14754	0	0	-	4279	1091	8915	469

の文字全体に対して比率 0.089…% (= 8/8923) である。本稿では小数第 2 位以下を切り捨てることとし、表でも例えば和歌における漢字比率は 0.0 と示す。

和歌が極端に仮名に傾いている。和歌における漢字は、次に挙げる「花」4 件・「日・見・世・中」各 1 件である。巻 - 国歌大観番号の前に切の種を示し、注目する箇所を下線を施す。

- 一 1- 32 をりつれはそてこそほへむめの花ありとやこゝにうくひのなく
 一 1- 49 ことしよりはるしりそむる さくら花ちるてふことはならはさらなむ
 二 3- 167 ちりをたにすゑしとそおもふ さきしよりいもとわかぬる とこなつの花
 二 5- 279 あきをおきてときこそありけれ きくの花 うつろふからにいろのまされば
 一 1- 8 はるの日の ひかりにあたる はなゝれと かしらのゆきとなるそわひしき
 一 1- 43 はることになかるゝかはをはなと見てをられぬみつにそてやぬれなむ
 三19-1062 世中はいかにくるしとおもふらむこゝらのひとにうらみられるは

切の種に偏るとも見られない。「花」が漢字の全例の半分であるが、仮名「はな」も、ここに挙げた 1-8 番歌・1-43 番歌に見られ、高野切全体では他に短歌 65 首・旋頭歌 2 首に見られる。漢字と仮名との違いは不明である。

詞書は 185 箇所に見られるが、漢字を含むものは 44 箇所に留まって、詞書全体における漢字比率は小さくなる。次が、漢字比率の平均に近い。直後の和歌の国歌大観番号を示す。

- 三18- 971 ふかくさのさとにすみはへりて 京へまうてくとて そこなりけるひとによみておくりける (漢字比率 2.5% = 漢字数 1 / 文字数 39)
 二 5- 276 よのなかのはかなきことをおもひけるをりに きくの花をみてよみける (漢字比率 3.2% = 漢字数 1 / 文字数 31)

詞書で漢字比率が大きい事例 2 件と、漢字を含まない長文 1 件とを、掲げる。

- 二 5- 271 寛平御時のきさいのみやの哥合のうた (漢字比率 35.2% = 漢字数 6 / 文字数 17)
 二 5- 312 九月卅日おほるにてよめる (漢字比率 33.3% = 漢字数 4 / 文字数 12)
 三18- 970 これたかのみこのもにかよひけるを かしらおろしてをのといふところにはへりけるときに むつきにとふらはむとてまかりてはへりけるに ひえのやまもとなりければ ゆきいとふかゝりけれと しひてかのむろにまかりいたりてをかみけるにつれゝゝとしていともかなしくてかへりまうてきてよみておくりける (漢字比率 0.0% = 漢字数 0 / 文字数 138)

高野切は、和歌において漢字を用いることが極めて稀れであり、元永本で和歌の用字法として古典的であろうと推測される様相と合致する。しかも、詞書においても漢字を用いることが少なく、比率では元永本詞書 19.6% の 1/7 程度であって、おおむね仮名による用字法が散文にもあったことを示唆している。

表3 高野切の漢字の一覧 付・仮名

漢字	合計	卷序	卷題	序文	詞書	読人	和歌	左注	漢字	合計	卷序	卷題	序文	詞書	読人	和歌	左注
伊	3	-	-	-	-	3	-	-	州	1	-	-	-	-	-	-	1
一	1	1	-	-	-	-	-	-	秋	1	-	1	-	-	-	-	-
院	8	-	-	-	8	-	-	-	集	8	7	-	-	1	-	-	-
雲	4	-	-	-	4	-	-	-	十	3	3	-	-	-	-	-	-
下	2	-	2	-	-	-	-	-	春	2	-	2	-	-	-	-	-
夏	1	-	1	-	-	-	-	-	女	1	-	-	-	1	-	-	-
歌	14	7	6	-	1	-	-	-	将	1	-	-	-	1	-	-	-
河	3	-	-	-	-	3	-	-	承	1	-	-	-	-	-	-	1
花	6	-	-	-	2	-	4	-	照	5	-	-	-	-	5	-	-
華	1	-	-	-	1	-	-	-	上	2	-	1	-	-	-	-	1
楽	1	-	1	-	-	-	-	-	条	4	-	-	-	3	1	-	-
卷	11	11	-	-	-	-	-	-	神	2	-	2	-	-	-	-	-
寛	12	-	-	-	12	-	-	-	臣	3	-	-	-	-	3	-	-
観	3	-	-	-	2	-	-	1	仁	5	-	-	-	4	-	-	1
貫	3	-	-	-	-	3	-	-	雀	1	-	-	-	1	-	-	-
基	1	-	-	-	-	1	-	-	世	1	-	-	-	-	-	1	-
紀	2	-	-	-	-	2	-	-	勢	5	-	-	-	1	4	-	-
徽	1	-	-	-	1	-	-	-	性	1	-	-	-	-	1	-	-
宮	4	-	-	-	4	-	-	-	正	4	-	-	-	-	4	-	-
京	3	-	-	-	3	-	-	-	仙	3	-	-	-	1	2	-	-
興	1	-	-	-	-	1	-	-	千	1	-	-	-	-	1	-	-
九	2	1	-	-	1	-	-	-	泉	1	-	-	-	-	1	-	-
慶	1	-	-	-	-	-	-	1	旋	1	-	1	-	-	-	-	-
月	1	-	-	-	1	-	-	-	前	1	-	-	-	1	-	-	-
見	1	-	-	-	-	-	1	-	素	1	-	-	-	-	1	-	-
元	2	-	-	-	-	1	-	1	僧	4	-	-	-	-	4	-	-
原	2	-	-	-	-	2	-	-	則	3	-	-	-	-	3	-	-
古	7	7	-	-	-	-	-	-	続	1	-	-	-	-	-	-	1
五	2	2	-	-	-	-	-	-	大	2	-	-	-	-	2	-	-
御	9	-	-	-	8	-	-	1	第	11	11	-	-	-	-	-	-
弘	1	-	-	-	1	-	-	-	中	2	-	-	-	1	-	1	-
恒	3	-	-	-	-	3	-	-	朝	3	-	-	-	-	3	-	-
江	1	-	-	-	-	1	-	-	亭	3	-	-	-	3	-	-	-
行	1	-	-	-	-	1	-	-	貞	3	-	-	-	2	-	-	1
合	1	-	-	-	1	-	-	-	殿	1	-	-	-	1	-	-	-
黒	1	-	-	-	-	1	-	-	東	3	-	1	-	2	-	-	-
今	8	7	-	-	-	-	-	1	藤	1	-	-	-	-	1	-	-
栽	1	-	-	-	1	-	-	-	頭	1	-	1	-	-	-	-	-
在	1	-	-	-	-	1	-	-	内	3	-	-	-	-	3	-	-
雜	1	-	1	-	-	-	-	-	二	7	3	-	-	3	1	-	-
三	1	1	-	-	-	-	-	-	日	6	-	-	-	4	-	1	1
山	2	-	-	-	2	-	-	-	之	3	-	-	-	-	3	-	-
子	4	-	-	-	3	1	-	-	八	3	3	-	-	-	-	-	-
師	3	-	-	-	-	3	-	-	伴	1	-	-	-	-	1	-	-
寺	1	-	-	-	1	-	-	-	誹	1	-	-	-	1	-	-	-
時	5	-	-	-	5	-	-	-	敏	1	-	-	-	-	1	-	-
主	1	-	-	-	-	1	-	-	風	3	-	-	-	2	1	-	-
朱	1	-	-	-	1	-	-	-	物	1	-	-	-	1	-	-	-
漢字	合計	卷序	卷題	序文	詞書	読人	和歌	左注	漢字	合計	卷序	卷題	序文	詞書	読人	和歌	左注

古今和歌集元永本の周辺における漢字

漢字	合計	巻序	巻題	序文	詞書	読人	和歌	左注	仮名	合計	巻題	序文	詞書	読人	和歌	左注	
平	12	-	-	-	12	-	-	-	あ	279	-	-	-	58	25	186	10
別	1	-	1	-	-	-	-	-	い	260	-	-	-	100	18	131	11
遍	5	-	-	-	-	5	-	-	う	196	-	-	-	92	6	76	22
方	1	-	-	-	-	1	-	-	え	42	-	-	-	12	1	28	1
法	2	-	-	-	-	2	-	-	お	164	-	-	-	52	12	92	8
本	1	-	-	-	-	-	-	1	か	694	-	-	-	177	32	466	19
翻	1	-	-	-	1	-	-	-	き	555	-	-	-	151	57	336	11
凡	3	-	-	-	-	3	-	-	く	308	-	-	-	59	3	238	8
末	1	-	-	-	-	1	-	-	け	351	-	-	-	194	7	136	14
万	1	-	-	-	1	-	-	-	こ	301	-	-	-	82	4	202	13
明	1	-	-	-	-	-	-	1	さ	251	-	-	-	65	14	165	7
友	3	-	-	-	-	3	-	-	し	489	-	-	-	121	62	294	12
有	2	-	-	-	-	2	-	-	す	232	-	-	-	46	53	128	5
葉	1	-	-	-	1	-	-	-	せ	116	-	-	-	36	20	59	1
利	1	-	-	-	1	-	-	-	そ	165	-	-	-	9	23	133	-
里	1	-	-	-	-	1	-	-	た	467	-	-	-	191	20	225	31
離	1	-	1	-	-	-	-	-	ち	223	-	-	-	35	24	160	4
律	1	-	-	-	-	1	-	-	つ	321	-	-	-	84	36	188	13
旅	1	-	1	-	-	-	-	-	て	366	-	-	-	159	2	187	18
林	4	-	-	-	4	-	-	-	と	673	-	-	-	209	62	382	20
倭	6	6	-	-	-	-	-	-	な	497	-	-	-	70	14	399	14
和	7	1	-	-	4	-	-	2	に	511	-	-	-	200	2	294	15
卅	1	-	-	-	1	-	-	-	ぬ	90	-	-	-	-	1	89	-
哥	6	-	3	-	3	-	-	-	ね	75	-	-	-	6	33	36	-
屏	2	-	-	-	2	-	-	-	の	910	-	-	-	308	86	477	39
洽	1	-	-	-	-	1	-	-	は	688	-	-	-	137	27	499	25
鞮	1	-	-	-	-	1	-	-	ひ	338	-	-	-	93	53	183	9
舍	1	-	-	-	1	-	-	-	ふ	246	-	-	-	47	32	164	3
諸	1	-	-	-	-	-	-	-	へ	197	-	-	-	76	5	106	10
贄	1	-	-	-	1	-	-	-	ほ	119	-	-	-	41	10	61	7
躬	3	-	-	-	-	3	-	-	ま	373	-	-	-	121	2	235	15
漢字	合計	巻序	巻題	序文	詞書	読人	和歌	左注	み	490	-	-	-	117	73	288	12
									む	245	-	-	-	54	28	152	11
									め	170	-	-	-	93	5	69	3
									も	341	-	-	-	51	15	268	7
									や	248	-	-	-	44	11	193	-
									ゆ	117	-	-	-	17	26	73	1
									よ	279	-	-	-	129	53	91	6
									ら	378	-	-	-	63	93	217	5
									り	431	-	-	-	177	18	219	17
									る	560	-	-	-	271	6	264	19
									れ	255	-	-	-	63	2	183	7
									ろ	108	-	-	-	17	3	83	5
									わ	102	-	-	-	13	-	89	-
									ゐ	12	-	-	-	4	-	8	-
									ゑ	30	-	-	-	11	-	19	-
									を	249	-	-	-	86	5	151	7
									ゝ	210	-	-	-	30	7	169	4
									ゝゝ	32	-	-	-	8	-	24	-
									仮名	合計	巻題	序文	詞書	読人	和歌	左注	

配列は JIS コード順である。ただし、漢字を仮名の前に置く。
一の字点「ゝ」・くの字点「ゝゝ」は仮名として仮名の末尾に配置する。

3—— 東京国立博物館所蔵十卷本寛平御時后宮歌合の文字

漢字をほとんど交えないということについて、脇道に逸れるが、古今和歌集の編集の材料となったものについて一瞥しておきたい。すなわち寛平御時后宮歌合の一本について一言する。

寛平御時后宮歌合が、菅原道真新撰万葉集の基礎になったとともに、古今和歌集にも短歌を多数提供した、ということは、よく知られている。ただし、問題も多く、現在に伝わっているものは、新撰万葉集や古今和歌集から再編されたものであるということにもなりかねない。問題というのは、歌合と称されながら勝負がないこと、百番が構想された見えながら伝わっているのは多く見て193首に止まること、その193首のうちに重複が2組あること、などである。

問題を抱えながらも、ここに一本がある。書写年代は不明ながら、宗尊親王筆写と伝えられ、現在は東京国立博物館に蔵されて、国宝の指定を受けている。宗尊親王は、1242 仁治3年生、1274 文永11年没、鎌倉幕府第6代将軍に就きながら関東の歌壇をまとめ、瓊玉和歌集を遺すなど、和歌への影響力は大きかった。その人の筆写であるとしても歌合から350年を経、元永本の時代から見ても100有数十年の後であり、どのみち古いとは言い難い。それにもかかわらず、古谷(1993)の写真によれば、著しい特徴を見て取ることができる。すなわち、短歌を書き記すのに漢字を全く交えていないのである。

その伝宗尊親王筆寛平御時后宮歌合は、伝える短歌の数は161首である。うち、第4句・第5句を全く記さないもの3首、第4句の後半と第5句全部とを記さないもの1首である。補入などが多いが、それを無視して、短歌を記した文字の延べ4953、そのうちで漢字と見得るのは次の「井」1字に留まる。末尾から数えて第5首に見える。

ちかけれどひとめゝゝをもるころはくも井はるけきみとやなりなむ

これを仮名と見るならば、漢字は全く用いられなかったことになる。仮名「ゐ」は、このほかには3件あり、いずれも字母「為」に由来して、字形が現在の「ゐ」に近い。

例えば動詞「見る」に対する文字「見」は、仮名であるか漢字であるかという問題を起こすが、それも、この歌合では、字母「美」に由来して字形が「み」に近いもので一貫している。

本稿は、基本的に仮名の研究ではないので、仮名の用法には立ち入らない。ただし、念のため、この歌合の短歌表記の仮名を表付として一覧する。上の「井」は仮名「ゐ」に算入する。

表付 寛平御時后宮歌合 東京国立博物館所蔵本の短歌表記の仮名

																「くも井」の「井」頻度1を仮名「ゐ」に繰り入れる。			
あ	83	か	246	さ	60	た	121	な	229	は	263	ま	107	や	70	ら	98	わ	48
い	51	き	170	し	158	ち	67	に	158	ひ	130	み	167			り	124	ゐ	4
う	43	く	155	す	86	つ	136	ぬ	49	ふ	95	む	73	ゆ	75	る	198		
え	26	け	84	せ	41	て	89	ね	17	へ	52	め	37			れ	106	ゑ	16
お	52	こ	122	そ	86	と	231	の	244	ほ	38	も	157	よ	51	ろ	46	を	78
																ゝ	102	ゝゝ	14

4—— 伝藤原公任筆本古今和歌集の漢字

伝藤原公任筆古今和歌集は、1992年に古書肆玉英堂書店に忽然と齎され、末尾に貼り込まれた古筆佐の1624寛永4年の極書によって命名されもして、同書店の目録第208号に載った。個人の手へ渡った後、全貌が小松（1995）に原寸・原色の写真で紹介された。仮名序・真名序がともに具わらないが、歌集本体二十巻が十巻ずつの2冊にまとまる。文字が判読できないような汚損・虫損がない。以下、この本を伝公任筆本と言い、小松の写真によって検討する。

伝公任筆本が収める和歌の数は1092首、うち短歌1083首である。定家本系統に比べて短歌に出入りがあり、1首増・9首減である。定家本系統に見えない1首は、4-236番歌の次に

をみなへし なきなやたちし 白露をぬれきぬにのみきてわたるらむ

とあるものであって、元永本にも見える。定家本系統にあって伝公任筆本に見えない9首は、巻序および国歌大観番号のみを掲げるならば、次のようである。

3- 158 4- 234 11- 482 13- 660 15- 764 16- 832
19-1035 19-1054 19-1055

元永本では、15-764番歌が見えないが、他は見える。

表4 古今和歌集の和歌の数

	定家本		伝公任筆本		
	歌数	増減	総歌数	文字完備	不備
巻一 春上	68		68	58	10
巻二 春下	66		66	54	12
巻三 夏	34	(-1)	33	29	4
巻四 秋上	80	(-1+1)	80	71	9
巻五 秋下	65		65	59	6
巻六 冬	29		29	24	5
巻七 賀	22		22	22	-
巻八 離別	41		41	36	5
巻九 羈旅	16		16	16	-
巻十 物名	47		47	40	7
巻十一 恋一	83	(-1)	82	69	13
巻十二 恋二	64		64	56	8
巻十三 恋三	61	(-1)	60	50	10
巻十四 恋四	70		70	61	9
巻十五 恋五	82	(-1)	81	70	11
巻十六 哀傷	34	(-1)	33	30	3
巻十七 雑上	70		70	61	9
巻十八 雑下	68		68	59	9
巻十九 雑体	68	(-3)	65	53	12
うち 短歌	59	(-3)	56	48	8
巻二十 御歌	32		32	25	7
合計	1100	(-9+1)	1092	943	149
うち 短歌	1091	(-9+1)	1083	938	145

伝公任筆本は、誤りと見られるところが少なくない。例えば、

春道のつらゆき

5- 303 山かにはにかせのかけたる しらなみはなかれも紅葉なりけり

では、読人に「列樹」が期待されるから「ゆ」が衍であると見られ、短歌第3句に「柵」が期待されるから「らな」が「から」の誤りであって、第4句に「流れも敢へぬ」の「敢へぬ」が脱であると見られる。補入すべき文字あるいは異文を右傍に記すこともあるが、この事例ではそれも見られない。本稿では、誤りと見られるものについて、伝公任筆本の筆写者に原因があるか、祖本に由来するか、といった検討はしない。また、右傍の文字を見ず、見せ消ちで消されたものも見ない。

しかしながら、短歌の各句において韻律が整わない脱字および衍字は、この事例で言うならば第4句「敢へぬ」の脱については、異常であることを確実に判断することができる。そのような句を含まず、とりあえず字数が揃っている和歌を文字完備とすることとする。例えば、

6- 317 ふゆされは衣もてきむしみ吉野ゝたかまの山にみゆきふるらし

で、初句「ふゆ」より「夕(ゆふ)」がよく、第4句「たかま」より「吉野(よしの)」がよいと思われるが、また第2句「衣もて」の「も」は捨て仮名であり、第3句「み吉野ゝ」の踊り字は文字反復でなく音韻反復を示すと考えて、この一首を文字完備とする。文字完備でないものを不備とすることになると、文字完備・不備の歌数は表4に示したようになる。全体での比率は、文字完備 86.3% (= 943 首/和歌合計 1092 首)、不備 13.6% (149 首) である。

表5 伝公任筆本の文字および漢字の総量

	合計	巻序	巻題	詞書	読人	和歌(短歌)	左注
文字全体	50032	182	57	11895	3135	33544 (27718)	1219
構成比率	100.0	0.3	0.1	23.7	6.2	67.0	2.4
漢字異なり	280	25	28	174	108	101 (95)	43
漢字延べ	5174	182	57	1378	1408	2014 (1701)	135
構成比率	100.0	3.5	1.1	26.6	27.2	38.9	2.6
漢字比率	10.3	100.0	100.0	11.5	44.9	6.0 (6.1)	11.0
仮名延べ	44858	0	0	10517	1727	31530 (26017)	1084

参考 元永本の文字および漢字の総量

	合計	巻序	巻題	詞書	読人	和歌(短歌)	左注
文字全体	48681	185	68	10731	2709	33974 (28913)	1014
構成比率	100.0	0.3	0.1	22.0	5.5	69.7	2.0
漢字異なり	591	21	44	335	194	324 (311)	69
漢字延べ	6482	185	67	2106	1604	2341 (2040)	179
構成比率	100.0	2.8	1.0	32.4	24.7	36.1	2.7
漢字比率	13.3	100.0	98.5	19.6	59.2	6.8 (7.0)	17.6
仮名延べ	42199	0	1	8625	1105	31633 (26873)	835

元永本では、ここの文字完備に相当するものとして、汚損もなく判読でき、かつ脱字・衍字がない、完全数というものを設定し、またそうでない欠損数というものを設定した。完全数 88.5% (= 985 首/和歌合計 1112 首), 欠損数 11.4% (127 首) であり、それと比べるならば、伝公任筆本のほうがやや乱れていると言ってよいかもしれない。

伝公任筆本の文字の全体量は、表 5 のようである。構成部分ごとにも見、また特に文字完備の短歌 943 首を取り上げて(短歌)の欄に見る。なお、対照のために、元永本の、序文およびその巻序を除いた文字の量を、前稿から再計算して掲げる。

伝公任筆本の漢字量の特徴として、元永本との対照により、異なりが半分程度であり(合計 280 字/591 字, 詞書 174 字/335 字, など)、特に和歌において 1/3 に届かない(合計 101 字/324 字, 短歌 95 字/311 字)ことを挙げることができる。延べはそこまで落ち込まない(合計 5174 字/6482 字, 詞書 1378 字/2106 字, 和歌 2014 字/2341 字, など)から、伝公任筆本では同じ漢字が反復して用いられるということであり、一字当たりの漢字の平均出現頻度(合計伝公任筆本 18.4 = 延べ 5174 字/異なり 280 字, 元永本 10.9 = 延べ 6482 字/異なり 591 字, など)は、次のように、伝公任筆本が元永本の 2 倍程度である。

	合計	巻序	巻題	詞書	読人	和歌(短歌)	左注
伝公任筆本	18.4	7.2	2.0	7.9	13.0	19.9 (17.9)	3.1
元永本	10.9	8.8	1.5	6.2	8.2	7.2 (6.5)	2.5

なお、文字の量について、文字の見なしかたに問題を残したところがある。すなわち、漢字を多めに数えているところがあり、例えば次の下線部を漢字と見なしている。

- 17- 881 ふたつなき物とおもひしを みなその山の葉ならていつる月かけ
 17- 884 あかなくにまたきも月のかくるゝか 山葉にけていれすもあらなむ
 1- 60 三吉野ゝ山辺にたてるさくらの花きえかとのみそあやまたれける
 2- 90 ふるさとゝなりにしな良の みやこにもいろかはらすは花そさきける
 18- 997 神な月しくれふりおける な良のはの なにおふみやのふることこれ
 19-1029 木の有とも 参考 1- 66 紀ありとも
 10- 454 木のめのと 参考 19-1028 紀のめのと
 9- 414 凡河内三恒

17-881 番歌第 4 句に助詞「の」を記した「山の葉」があるが、884 番歌第 4 句「山葉」も、全体で「やまのは」であると見て、仮名「の」が欠脱しているとはしない。19-1029 番歌以下の事例は読人であり、番号は直後の和歌のものである。

読人に凡河内躬恒は 49 件現れ、その表記は次のようである。9-414 番歌直前のような「三」は、半数の 25 件で採られている。

凡河内躬恒	2 件	躬恒	3 件
凡河内三恒	2 件	三恒	11 件

凡内三つね 1件 三つね 10件 三ね 1件
 おふしかうちのみつね 6件 みつね 13件

このほかに詞書に次がある。

17- 880 月おもしろしとて 凡河内のみつねかまうてきたりければよめる
 読人の「凡内三つね」(1-30 番歌直前)は「凡内」の右傍に「河」とあって、「三ね」(2-127
 番歌直前)も右傍に「つ」とあり、また「三恒」の1件(3-163 番歌直前)は右傍に「たゝみ
 ね」とある。そうした誤記の認識はありながら、躬恒についての「三」は誤記と認識されてい
 ないようである。「三」を仮名と見るほうがよいかとも思われる。しかしながら、読人におけ
 る在原業平が、「業」を一度も用いられることなく、

なりひら朝臣 1件 なりひらの朝臣 4件
 在原成平朝臣 9件 成平朝臣 12件

のようにおおらかに記されていることも併せ考えて、躬恒の「三」を漢字とする。

伝公任筆本には、漢字の比率を下げる要因もあり、すなわち、上に文字完備の事例とした短
 歌のうちの「衣も」の捨て仮名である。漢字「衣」29件はすべて用語「ころも」にかかわり、

表6 伝公任筆本の漢字の出現の一覧 付・仮名

漢字	合計	巻序	巻題	序文	詞書	読人	和歌	左注	漢字	合計	巻序	巻題	序文	詞書	読人	和歌	左注
哀	1	-	1	-	-	-	-	-	火	3	-	-	-	1	-	2	-
或	10	-	-	-	-	-	-	10	花	106	-	-	-	18	-	88	-
安	1	-	-	-	-	1	-	-	霞	17	-	-	-	-	-	17	-
伊	25	-	-	-	2	20	3	-	我	164	-	-	-	-	-	163	1
委	1	-	-	-	-	1	-	-	賀	11	-	1	-	10	-	-	-
衣	29	-	-	-	-	-	29	-	雅	1	-	-	-	1	-	-	-
井	6	-	-	-	3	-	3	-	介	2	-	-	-	2	-	-	-
一	24	2	1	-	-	-	20	1	晦	2	-	-	-	2	-	-	-
院	22	-	-	-	16	6	-	-	郭	9	-	-	-	4	-	5	-
右	3	-	-	-	2	1	-	-	卷	21	21	-	-	-	-	-	-
卯	1	-	-	-	1	-	-	-	官	1	-	-	-	1	-	-	-
云	16	-	-	-	-	-	3	13	寛	34	-	-	-	34	-	-	-
雲	26	-	-	-	4	1	21	-	観	3	-	-	-	2	-	-	1
叡	1	-	-	-	1	-	-	-	貫	61	-	-	-	-	61	-	-
影	21	-	-	-	1	-	20	-	閑	2	-	-	-	-	2	-	-
衛	2	-	-	-	-	2	-	-	丸	9	-	-	-	-	1	1	7
王	3	-	-	-	3	-	-	-	雁	3	-	-	-	3	-	-	-
鶯	7	-	-	-	2	-	5	-	季	1	-	-	-	1	-	-	-
屋	7	-	-	-	1	6	-	-	紀	58	-	-	-	3	55	-	-
下	7	-	3	-	-	1	3	-	記	1	-	-	-	-	-	-	1
何	1	-	-	-	-	-	1	-	菊	2	-	-	-	-	-	2	-
夏	13	-	1	-	1	-	11	-	吉	20	-	-	-	2	6	12	-
家	17	-	-	-	17	-	-	-	橘	7	-	-	-	1	3	2	1
歌	56	15	11	-	25	-	-	5	宮	47	-	-	-	44	-	3	-
河	6	-	-	-	2	4	-	-	給	3	-	-	-	3	-	-	-
漢字	合計	巻序	巻題	序文	詞書	読人	和歌	左注	漢字	合計	巻序	巻題	序文	詞書	読人	和歌	左注

古今和歌集元永本の周辺における漢字

漢字	合計	卷序	卷題	序文	詞書	読人	和歌	左注	漢字	合計	卷序	卷題	序文	詞書	読人	和歌	左注
京	14	-	-	-	13	-	-	1	思	6	-	-	-	-	-	6	-
卿	1	-	-	-	1	-	-	-	事	23	-	-	-	5	-	18	-
興	8	-	-	-	-	8	-	-	侍	22	-	-	-	20	2	-	-
玉	2	-	-	-	-	-	2	-	寺	8	-	-	-	8	-	-	-
錦	2	-	-	-	-	-	2	-	持	1	-	-	-	-	1	-	-
近	6	-	-	-	3	3	-	-	時	27	-	-	-	24	-	3	-
九	5	2	-	-	3	-	-	-	七	10	2	-	-	8	-	-	-
君	90	-	-	-	4	13	71	2	舍	1	-	-	-	1	-	-	-
郡	1	-	-	-	-	1	-	-	手	5	-	-	-	1	-	4	-
慶	1	-	-	-	-	-	-	1	朱	4	-	-	-	4	-	-	-
敬	1	-	-	-	-	1	-	-	州	1	-	-	-	-	-	-	1
景	5	-	-	-	-	1	4	-	秋	43	-	2	-	6	-	35	-
月	84	-	-	-	24	-	58	2	集	21	21	-	-	-	-	-	-
兼	2	-	-	-	-	2	-	-	十	18	10	-	-	8	-	-	-
憲	1	-	-	-	-	1	-	-	俊	1	-	-	-	1	-	-	-
元	15	-	-	-	-	14	-	1	春	115	-	2	-	17	7	89	-
原	74	-	-	-	10	62	1	1	初	3	-	-	-	2	-	1	-
源	12	-	-	-	2	10	-	-	所	19	-	1	-	18	-	-	-
言	3	-	-	-	3	-	-	-	女	2	-	-	-	-	1	-	1
古	21	21	-	-	-	-	-	-	傷	1	-	1	-	-	-	-	-
五	15	2	1	-	6	-	6	-	将	4	-	-	-	4	-	-	-
御	71	-	1	-	63	-	-	7	小	24	-	-	-	1	21	2	-
光	7	-	-	-	-	-	7	-	昭	13	-	-	-	3	10	-	-
公	9	-	-	-	4	-	5	-	松	5	-	-	-	-	-	5	-
后	27	-	-	-	27	-	-	-	照	4	-	-	-	1	3	-	-
恒	18	-	-	-	-	18	-	-	裳	2	-	-	-	2	-	-	-
江	6	-	-	-	-	6	-	-	上	9	1	3	-	1	3	-	1
甲	1	-	-	-	1	-	-	-	常	1	-	-	-	-	1	-	-
紅	1	-	-	-	-	-	1	-	条	12	-	-	-	10	2	-	-
行	18	-	-	-	1	15	2	-	色	34	-	-	-	1	-	33	-
高	1	-	-	-	-	1	-	-	信	1	-	-	-	-	1	-	-
合	23	-	-	-	23	-	-	-	心	90	-	-	-	7	1	80	2
国	2	-	-	-	2	-	-	-	申	1	-	-	-	-	-	-	1
此	7	-	-	-	-	-	-	7	神	31	-	-	-	6	-	25	-
今	49	21	-	-	1	-	26	1	臣	85	-	-	-	12	73	-	-
左	3	-	-	-	2	1	-	-	身	1	-	-	-	-	-	1	-
宰	1	-	-	-	1	-	-	-	人	522	-	-	-	93	130	267	32
裁	3	-	-	-	2	-	-	1	仁	9	-	-	-	8	-	-	1
歳	2	-	-	-	2	-	-	-	壬	9	-	-	-	-	9	-	-
在	27	-	-	-	-	26	-	1	吹	32	-	-	-	1	-	31	-
坂	3	-	-	-	-	3	-	-	水	6	-	-	-	2	-	4	-
昨	4	-	-	-	-	-	4	-	菅	3	-	-	-	-	3	-	-
桜	41	-	-	-	18	-	23	-	雀	4	-	-	-	4	-	-	-
雜	4	-	4	-	-	-	-	-	澄	1	-	-	-	-	1	-	-
三	36	2	1	-	4	27	2	-	世	28	-	-	-	1	-	27	-
山	173	-	-	-	29	-	144	-	是	9	-	-	-	2	7	-	-
四	6	2	1	-	3	-	-	-	勢	25	-	-	-	2	20	3	-
子	5	-	-	-	4	1	-	-	性	27	-	-	-	-	27	-	-
師	1	-	-	-	-	1	-	-	成	26	-	-	-	5	21	-	-
志	1	-	-	-	1	-	-	-	正	14	-	-	-	4	10	-	-

立命館白川靜記念東洋文字文化研究所紀要 第七號

漢字	合計	卷序	卷題	序文	詞書	読人	和歌	左注	漢字	合計	卷序	卷題	序文	詞書	読人	和歌	左注
清	4	-	-	-	-	4	-	-	頭	2	1	-	-	1	-	-	-
生	9	-	-	-	-	9	-	-	同	2	-	-	-	2	-	-	-
盛	1	-	-	-	-	1	-	-	道	3	-	-	-	-	2	-	1
西	4	-	-	-	4	-	-	-	読	41	-	-	-	-	41	-	-
齊	2	-	-	-	2	-	-	-	内	7	-	-	-	1	6	-	-
昔	21	-	-	-	3	-	14	4	南	3	-	-	-	1	-	2	-
石	2	-	-	-	2	-	-	-	二	10	2	1	-	6	1	-	-
節	2	-	-	-	2	-	-	-	尼	1	-	-	-	-	1	-	-
雪	12	-	-	-	2	-	10	-	廿	1	1	-	-	-	-	-	-
仙	1	-	-	-	1	-	-	-	日	89	-	-	-	31	-	57	1
千	25	-	-	-	-	8	17	-	如	1	-	-	-	-	-	1	-
川	10	-	-	-	7	2	1	-	年	17	-	-	-	-	6	10	1
旋	1	1	-	-	-	-	-	-	之	61	-	-	-	-	61	-	-
前	3	-	-	-	2	-	-	1	納	3	-	-	-	3	-	-	-
素	22	-	-	-	-	22	-	-	馬	2	-	-	-	2	-	-	-
僧	12	-	-	-	2	10	-	-	梅	9	-	-	-	4	-	5	-
相	1	-	-	-	1	-	-	-	白	17	-	-	-	-	-	17	-
草	12	-	-	-	-	-	12	-	八	4	2	-	-	2	-	-	-
霜	1	-	-	-	-	-	1	-	斐	1	-	-	-	1	-	-	-
藏	2	-	-	-	2	-	-	-	比	4	-	-	-	4	-	-	-
則	38	-	-	-	1	37	-	-	誹	1	1	-	-	-	-	-	-
村	2	-	-	-	2	-	-	-	不	114	-	-	-	84	30	-	-
待	6	-	-	-	-	-	6	-	部	1	-	-	-	-	1	-	-
大	43	-	1	-	14	20	6	2	風	87	-	-	-	10	16	61	-
第	20	20	-	-	-	-	-	-	物	60	-	1	-	3	-	56	-
題	98	-	-	-	98	-	-	-	文	13	-	-	-	1	12	-	-
但	1	-	-	-	1	-	-	-	兵	2	-	-	-	-	2	-	-
谷	1	-	-	-	1	-	-	-	平	72	-	-	-	38	34	-	-
短	1	-	1	-	-	-	-	-	別	1	-	1	-	-	-	-	-
知	114	-	-	-	84	30	-	-	辺	20	-	-	-	-	-	20	-
地	6	-	-	-	2	-	4	-	返	11	-	-	-	10	-	1	-
池	1	-	-	-	-	-	1	-	遍	19	-	-	-	5	14	-	-
致	11	-	-	-	1	10	-	-	輔	1	-	-	-	-	1	-	-
竹	1	-	-	-	-	-	1	-	母	1	-	-	-	-	1	-	-
中	42	-	-	-	9	1	31	1	峰	7	-	-	-	-	7	-	-
忠	23	-	-	-	-	23	-	-	方	18	-	-	-	1	13	4	-
朝	90	-	-	-	14	74	2	-	法	29	-	-	-	4	25	-	-
町	7	-	-	-	-	7	-	-	房	2	-	-	-	-	2	-	-
長	4	-	-	-	2	2	-	-	北	1	-	-	-	1	-	-	-
鳥	1	-	-	-	1	-	-	-	堀	1	-	-	-	1	-	-	-
亭	4	-	-	-	4	-	-	-	本	4	-	-	-	-	-	1	3
貞	6	-	-	-	5	-	-	1	凡	6	-	-	-	1	5	-	-
定	8	-	-	-	-	8	-	-	又	5	-	-	-	-	-	1	4
典	1	-	-	-	-	1	-	-	末	1	-	-	-	1	-	-	-
殿	2	-	-	-	2	-	-	-	万	1	-	-	-	1	-	-	-
田	16	-	-	-	4	-	12	-	務	1	-	-	-	1	-	-	-
冬	14	-	1	-	4	-	9	-	名	15	-	1	-	1	-	13	-
唐	1	-	-	-	-	-	1	-	明	5	-	-	-	1	-	3	1
東	7	-	-	-	7	-	-	-	鳴	3	-	-	-	2	-	1	-
藤	37	-	-	-	7	30	-	-	木	21	-	-	-	7	3	11	-

古今和歌集元永本の周辺における漢字

漢字	合計	卷序	卷題	序文	詞書	読人	和歌	左注	仮名	合計	卷題	序文	詞書	読人	和歌	左注	
門	1	-	-	-	1	-	-	-	あ	900	-	-	-	165	16	693	26
夜	16	-	-	-	5	-	11	-	い	673	-	-	-	159	20	477	17
野	61	-	-	-	7	17	37	-	う	550	-	-	-	203	22	282	43
友	35	-	-	-	1	34	-	-	え	165	-	-	-	28	-	136	1
有	13	-	-	-	-	2	8	3	お	599	-	-	-	119	21	449	10
猶	1	-	-	-	-	-	1	-	か	2170	-	-	-	464	72	1579	55
葉	45	-	-	-	3	-	42	-	き	1446	-	-	-	319	61	1043	23
来	1	-	-	-	-	-	-	1	く	975	-	-	-	138	7	804	26
覧	16	-	-	-	2	-	14	-	け	1095	-	-	-	508	25	526	36
利	1	-	-	-	1	-	-	-	こ	956	-	-	-	177	21	716	42
里	10	-	-	-	-	7	3	-	さ	748	-	-	-	128	26	582	12
離	1	-	1	-	-	-	-	-	し	1792	-	-	-	317	166	1280	29
律	1	-	-	-	-	1	-	-	す	714	-	-	-	84	125	494	11
立	20	-	-	-	6	-	14	-	せ	282	-	-	-	82	12	187	1
竜	4	-	-	-	2	-	2	-	そ	596	-	-	-	36	12	546	2
旅	1	-	1	-	-	-	-	-	た	1305	-	-	-	349	38	863	55
良	11	-	-	-	7	-	2	2	ち	556	-	-	-	100	43	403	10
林	5	-	-	-	4	1	-	-	つ	914	-	-	-	195	52	643	24
恋	37	-	5	-	1	-	31	-	て	1189	-	-	-	489	4	655	41
露	45	-	-	-	-	-	45	-	と	1758	-	-	-	445	25	1238	50
六	5	2	-	-	3	-	-	-	な	1780	-	-	-	220	20	1489	51
倭	7	7	-	-	-	-	-	-	に	1797	-	-	-	554	3	1202	38
和	25	14	-	-	10	-	-	1	ぬ	403	-	-	-	14	3	384	2
哥	48	8	7	-	29	-	-	4	ね	279	-	-	-	18	66	192	3
屏	9	-	-	-	9	-	-	-	の	2644	-	-	-	737	127	1690	90
岑	18	-	-	-	-	18	-	-	は	2012	-	-	-	359	21	1588	44
羈	1	-	1	-	-	-	-	-	ひ	751	-	-	-	176	18	550	7
諧	1	1	-	-	-	-	-	-	ふ	732	-	-	-	116	58	550	8
躬	5	-	-	-	-	5	-	-	へ	625	-	-	-	184	9	409	23
々	6	-	-	-	-	-	6	-	ほ	267	-	-	-	58	10	197	2
漢字	合計	卷序	卷題	序文	詞書	読人	和歌	左注	ま	984	-	-	-	269	21	666	28
									み	1395	-	-	-	307	141	923	24
									む	683	-	-	-	92	39	537	15
									め	607	-	-	-	275	9	316	7
									も	1295	-	-	-	164	10	1100	21
									や	585	-	-	-	73	28	477	7
									ゆ	306	-	-	-	24	30	249	3
									よ	889	-	-	-	370	116	388	15
									ら	1086	-	-	-	115	143	817	11
									り	1406	-	-	-	517	20	813	56
									る	1706	-	-	-	716	19	928	43
									れ	888	-	-	-	171	6	691	20
									ろ	233	-	-	-	35	5	186	7
									わ	302	-	-	-	34	-	266	2
									ゐ	41	-	-	-	10	-	31	-
									ゑ	74	-	-	-	17	-	57	-
									を	881	-	-	-	260	10	581	30
									ゝ	690	-	-	-	103	27	551	9
									ゝゝ	134	-	-	-	24	-	106	4
									仮名	合計	卷題	序文	詞書	読人	和歌	左注	

配列は JIS コード順である。ただし、漢字を仮名の前に置く。
 同の字点「々」は漢字として漢字の末尾に配置し、
 一の字点「ゝ」・くの字点「ゝゝ」は仮名として仮名の末尾に配置する。

次のようである。短歌の事例1件を添える。

衣 9件 衣手 2件 から衣 7件 ふち衣 2件 あま衣 1件 はな色衣 1件
衣も 2件 衣もて 1件 から衣も 2件 しほやき衣も 1件 山わけ衣も 1件

1- 25 我せこか 衣もはるさめふることに の辺のみとりそ色まさりける

表7 伝公任筆本和歌の漢字（出現頻度順）

比率は千分率‰, 小数第2位以下切り捨て

順位	出現頻度	比率	漢字数	累積比率	漢字
1	267	132.5	1	132.5	人
2	163	80.9	1	213.5	我
3	144	71.4	1	285.0	山
4	89	44.1	1	329.1	春
5	88	43.6	1	372.8	花
6	80	39.7	1	412.6	心
7	71	35.2	1	447.8	君
8	61	30.2	1	478.1	風
9	58	28.7	1	506.9	月
10	57	28.3	1	535.2	日
11	56	27.8	1	563.0	物
12	45	22.3	1	585.4	露
13	42	20.8	1	606.2	葉
14	37	18.3	1	624.6	野
15	35	17.3	1	642.0	秋
16	33	16.3	1	658.3	色
17	31	15.3	3	704.5	吹 中 恋
20	29	14.3	1	718.9	衣
21	27	13.4	1	732.3	世
22	26	12.9	1	745.2	今
23	25	12.4	1	757.6	神
24	23	11.4	1	769.1	桜
25	21	10.4	1	779.5	雲
26	20	9.9	3	809.3	一 影 辺
29	18	8.9	1	818.2	事
30	17	8.4	3	843.5	霞 千 白
33	14	6.9	3	864.4	昔 覧 立
36	13	6.4	1	870.9	名
37	12	5.9	3	888.7	吉 草 田
40	11	5.4	3	905.1	夏 木 夜
43	10	4.9	2	915.0	雪 年
45	9	4.4	1	919.5	冬
46	8	3.9	1	923.5	有
47	7	3.4	1	927.0	光
48	6	2.9	5	941.9	五 思 待 太 々
53	5	2.4	5	954.3	鶯 郭 公 松 梅
58	4	1.9	6	966.2	景 昨 手 水 地 方
64	3	1.4	9	979.6	伊 井 云 下 宮 時 勢 明 里
73	2	0.9	12	991.5	火 菊 橋 玉 錦 行 勢 明 里
85	1	0.4	17	1000.0	何 丸 橋 玉 錦 行 勢 明 里 朝 南 童 良 返 本
					又 鳴 猶

また、漢字「昔」21件は用語「むかし」にかかわり、「昔」1件、「昔し」20件である。それぞれの事例に、詞書のものも加える。

18- 940 あはれてふ ことの葉ことにおく露は 昔をこふる なみたなりけれ

1- 42 人はいさ心もしらすふるさとは花そ昔しのかに、ほひける

4- 219 昔しあひしりてはへりける人の あきの野にあひて ものかたりしけるついでによめる

伝公任筆本における漢字を、表6として漢字コード順に一覧し、また和歌・詞書・読人それぞれにおけるものを、表7・8・9として出現頻度順に一覧する。和歌と詞書とに共通する漢

表8 伝公任筆本詞書の漢字（出現頻度順）

比率は千分率‰，小数第2位以下切り捨て

順位	出現頻度	比率	漢字数	累積比率	漢字
1	98	71.1	1	71.1	題
2	93	67.4	1	138.6	人
3	84	60.9	2	260.5	知 不
5	63	45.7	1	306.2	御
6	44	31.9	1	338.1	宮
7	38	27.5	1	365.7	平
8	34	24.6	1	390.4	寛
9	31	22.4	1	412.9	日
10	29	21.0	2	455.0	山 哥
12	27	19.5	1	474.6	后
13	25	18.1	1	492.7	歌
14	24	17.4	2	527.5	月 時
16	23	16.6	1	544.2	合
17	20	14.5	1	558.7	侍
18	18	13.0	3	597.9	花 桜 所
21	17	12.3	2	622.6	家 春
23	16	11.6	1	634.2	院
24	14	10.1	2	654.5	大 朝
26	13	9.4	1	664.0	京
27	12	8.7	1	672.7	臣
28	10	7.2	6	716.2	賀 原 条 風 返 和
34	9	6.5	2	729.3	中 屏 七
36	8	5.8	4	752.5	寺 十 仁 藤 木 野 良
40	7	5.0	7	788.0	心 川 東 藤 木 野 良
47	6	4.3	5	809.8	五 秋 神 二 遍 夜 三 子 朱 将 雀 正 西 亭 田 冬
52	5	3.6	5	828.0	事 成 眞 遍 公 林 三 子 朱 将 雀 正 西 亭 田 冬
57	4	2.9	18	880.2	雲 郭 比 王 雁 紀 給 近 九 言 四 昭 昔 納 物 葉
75	3	2.1	15	912.9	梅 井 六 伊 右 鶯 河 介 晦 観 吉 源 国 左 栽 歳 初
90	2	1.4	35	963.7	裳 水 是 勢 齊 石 節 雪 前 僧 藏 村 地 長
125	1	0.7	50	1000.0	殿 同 馬 八 屋 夏 火 小 内 友 観 節 雪 前 僧 藏 村 地 長 今 則 末
					卯 宰 但 万 右 水 同 馬 八 屋 夏 火 小 内 友 観 節 雪 前 僧 藏 村 地 長 今 則 末

字が65件あり、表7・8のそれに下線を施す。和歌の漢字は、詞書にも現れるが、詞書において必ずしも重きをなすものではないという、元永本と同様の特徴を直感的に見て取ることができる。読人の表9では、その漢字の伝公任筆本全体における合計出現頻度の半数に満たないというものに、下線を施す。下線を施していない漢字「題、知、不、御、……」のほうが、読人を特徴づけることになるであろう。左注、巻序、巻題の漢字についてあらためて一覧することは、省略する。

表9 伝公任筆本読人の漢字（出現頻度順）

比率は千分率‰，小数第2位以下切り捨て

順位	出現頻度	比率	漢字数	累積比率	漢字
1	130	92.3	1	92.3	人
2	74	52.5	1	144.8	朝
3	73	51.8	1	196.7	臣
4	62	44.0	1	240.7	原
5	61	43.3	2	327.4	貫 之
7	55	39.0	1	366.4	紀
8	41	29.1	1	395.5	読
9	37	26.2	1	421.8	則
10	34	24.1	2	470.1	平 友
12	30	21.3	3	534.0	知 藤 不
15	27	19.1	2	572.4	三 性
17	26	18.4	1	590.9	在
18	25	17.7	1	608.6	法
19	23	16.3	1	625.0	忠
20	22	15.6	1	640.6	素
21	21	14.9	2	670.4	小 成
23	20	14.2	3	713.0	伊 勢 大
26	18	12.7	2	738.6	恒 岑
28	17	12.0	1	750.7	野
29	16	11.3	1	762.0	風
30	15	10.6	1	772.7	行
31	14	9.9	2	792.6	元 遍
33	13	9.2	2	811.0	君 方
35	12	8.5	1	819.6	文
36	10	7.1	5	855.1	源 昭 正 僧 致
41	9	6.3	2	867.8	壬 生
43	8	5.6	3	884.9	興 千 定
46	7	4.9	5	909.8	春 是 町 峰 里
51	6	4.2	6	935.3	院 屋 吉 江 内 年
57	5	3.5	2	942.4	凡 躬
59	4	2.8	2	948.1	河 清
61	3	2.1	7	963.0	橋 近 坂 照 上 菅 木
68	2	1.4	11	978.6	衛 閑 兼 侍 条 川 長 道 兵 房 有
79	1	0.7	30	1000.0	安 委 右 雲 下 丸 郡 敬 兵 房 有 高 左 子 師
					持 女 常 信 心 澄 盛 中 憲 二 高 尼 部 輔 母
					律 林

5—— 伝藤原公任筆本古今和歌集の短歌表記の漢字

伝公任筆本の文字完備の短歌について一首ごとに仮名数・漢字数を見ると、表10のようである。全938首は、漢字数0のものが173首、漢字数1のものが269首、漢字数2のものが226首、……であり、仮名数33の6首および仮名数32の39首はすべて漢字数0であり、仮名数31の135首は漢字数0の126首と漢字数1の9首とであり、……、ということを示している。全体が仮名数33～18、漢字数0～7のうちにあるというのは、元永本の仮名数33～5、漢字数0～15に比べて取まりがよい。しかし、そのうちでは分散し、多いところは

仮名数	漢字数	文字数合計	漢字比率	短歌数
31	0	31	0.0%	126首
30	1	31	3.2%	55首
29	1	30	3.3%	183首(最多)
28	2	30	6.6%	55首(平均)
27	2	29	6.8%	125首
25	3	28	10.7%	61首

であって、まとまらない。平均は仮名数27.7、漢字数1.8、文字数合計29.5であり、それを整数にしたものをここに「(平均)」と示した。

文字数による短歌を例示する。短歌の前に「(仮名数+漢字数)巻序-国歌大観番号」を置く。
 (33+0) 2- 133 ぬれつゝそしみてをりつるとしのうちにはるはいくかもあらしとおもへは
 (32+0) 1- 48 ちりぬともかをたにのこせむめのはなこひしきときのおもひいてにせむ

表10 仮名数・漢字数から見た短歌数

仮名数\漢字数	0	1	2	3	4	5	6	7	
938	<u>173</u>	<u>269</u>	<u>226</u>	<u>150</u>	84	25	8	3	
33	6	6	-	-	-	-	-	-	
32	39	39	-	-	-	-	-	-	
31	<u>135</u>	<u>126</u>	9	-	-	-	-	-	
30	<u>59</u>	2	55	2	-	-	-	-	
29	<u>202</u>	-	<u>183</u>	19	-	-	-	-	一首平均文字数 29.5
28	<u>80</u>	-	22	55	3	-	-	-	一首平均仮名数 27.7
27	<u>146</u>	-	-	<u>125</u>	21	-	-	-	一首平均漢字数 1.8
26	<u>67</u>	-	-	23	38	6	-	-	は上位4位まで
25	<u>81</u>	-	-	2	<u>61</u>	16	2	-	
24	<u>52</u>	-	-	-	26	24	1	1	
23	<u>34</u>	-	-	-	-	27	6	1	
22	<u>21</u>	-	-	-	1	9	9	2	
21	8	-	-	-	-	2	5	1	
20	2	-	-	-	-	-	1	1	
19	1	-	-	-	-	-	1	-	
18	5	-	-	-	-	-	-	2	3

- (31+0) 2- 111 こまなめていさみにゆかむ ふるさとはゆきとのみこそはなはちるらめ
 (30+0)13- 654 おもふとちひとり、かこひしなはたれによそへてふちころもきむ
 (31+1) 6- 342 ゆくとしのをしくもあるかなますか、みみる影さへにくれぬとおもへは
 (30+1) 1- 45 くとあくとめかれぬものをむめのはないつの人まにうつろひぬらむ
 (29+1) 1- 7 心さしふかくそめてしをりければきえあへぬゆきをはなとみゆらむ
 (28+1) 2- 72 このさとにたひねしつへし桜はなちりのまかひにいへちわすれて
 (30+2)19-1019 はなとみてをらむとすれはをみなへしうた、あるさまの名にこそ有けれ
 (29+2) 1- 52 としふれはよはひはおいぬしかはあれと花をしみれば物おもひもなし
 (28+2) 1- 10 春やとき花やおそきとき、わかむうくひすたにもなかつもあるかな
 (27+2) 1- 24 ときはなるまつのみとりも春くれはいまひとしほの色まさりけり
 (26+2) 1- 4 雪のうちはるはきにけり鶯のこほれるなみたいまやとくらむ
 (25+2) 3- 155 やとりせし花橋もかれなくになとほと、きすこゑたえぬらむ
 (28+3) 5- 306 山田もるあきのかりいほにおく露はいなおほせとりのなみたなりけり
 (27+3) 1- 64 ちりぬれはこふれとしるしなき物を今日こそさくらをらはをりてめ
 (26+3) 2- 113 花の色はうつりにけりないたつらに我みよにふるなかめせしまに
 (25+3) 1- 27 あさみとりいとよりかけて白露をたまにもぬける春のやなきか
 (24+3) 1- 59 桜はなさきにけらしなあしひきの山のかひよりみゆるしら雲
 (22+3)11- 515 から衣ひもゆふくれになるときは返、そひとは恋しき
 (26+4) 4- 183 今日よりはいまこむとしの昨日をそいつしかとのみまちわたるへき
 (25+4) 1- 1 としのうちにはるはきにけり一年をこそとや云むことしとや云む
 (24+4) 5- 256 秋風の吹にし日よりおとはやまみねのこすへもいろつきにけり
 (23+4) 1- 62 あたなりと名にこそたてれ桜はな年にまれなる人もまちけり
 (22+4) 2- 85 春風は花のあたりをよきてふけ心つからやうつろふとみむ
 (21+4) 1- 58 たれしかもとめてをりつる春霞たちかくすらむ山の桜を

巻ごとに、漢字数幾つの短歌が幾首あるかという形で集計すると、表 11 である。上軸が漢字数、縦軸が巻序であり、上軸の直後の 1 行は、表 10 の上軸の直後の 1 行を繰り返すことになる。巻第 1 では、漢字数 0 の短歌が 3 首、漢字数 1 が 14 首、漢字数 2 が 12 首、……、巻第 1 全体で文字延べ 1665 字、漢字延べ 145 字、漢字比率 8.7% (= 145 字/1665 字)、というような表である。特徴的な巻はないと言ってよいと思うが、漢字比率では、巻第 1 - 第 8 の 8 巻で平均 6.1% を下回るのは巻第 4 の 1 巻のみ、巻第 9 以下の 12 巻で平均を上回るのは巻第 16 の 1 巻のみといった、前のほうに漢字が多いという傾きを、見ることができる。

*

4節・5節を通して見た伝公任筆本における仮名・漢字のありかたは、筆写の時代が元永本と同じころであると推測されながら、元永本と対立的な様相を呈している。元永本は、専ら仮名による言わば短歌表記の古態を、幾巻かに留めていたが、伝公任筆本は、全体に亘って、漢字を一二交えることを厭わない。しかも、その漢字も異なりでは元永本より少ない。伝公任筆本の姿は、現代的様相に繋がると想像してよいかもしれない。

参照文献

- 小松 茂美 (1995) 伝藤原公任筆古今和歌集。旺文社。
 古谷 稔 (1993) 寛平御時后宮歌合 伝宗尊親王筆。二女社、日本名筆選 14。
 高野切については、表 1 を参照されたい。

表 11 漢字数から見た巻ごと短歌数

卷序 \ 漢字数	漢字数									文字	漢字	(漢字
	0	1	2	3	4	5	6	7	8	延べ	延べ	比率)
	938	173	269	226	150	84	25	8	3	27718	1701	(6.1)
一	58	3	14	12	14	11	3	1	-	1665	145	(8.7)
二	54	4	9	10	16	9	4	2	-	1538	145	(9.4)
三	29	6	6	6	5	4	1	-	1	840	61	(7.2)
四	71	14	19	19	8	8	3	-	-	2106	128	(6.0)
五	59	7	15	16	10	7	3	1	-	1744	126	(7.2)
六	24	2	5	6	5	5	-	1	-	700	58	(8.2)
七	22	1	8	6	2	4	-	-	1	645	49	(7.5)
八	36	5	7	15	6	1	1	1	-	1053	70	(6.6)
九	16	4	8	2	1	1	-	-	-	486	19	(3.9)
十	40	12	13	9	5	1	-	-	-	1196	50	(4.1)
十一	69	17	19	16	10	6	1	-	-	2059	110	(5.3)
十二	56	8	21	13	5	7	2	-	-	1656	100	(6.0)
十三	50	18	17	10	2	2	-	-	1	1508	58	(3.8)
十四	61	12	19	18	9	3	-	-	-	1828	94	(5.1)
十五	70	10	26	14	15	3	1	1	-	2072	122	(5.8)
十六	30	6	7	6	8	2	1	-	-	888	56	(6.3)
十七	61	16	15	15	10	3	2	-	-	1812	97	(5.3)
十八	59	10	20	14	11	3	1	-	-	1754	98	(5.5)
十九	48	8	14	14	8	2	1	1	-	1415	85	(6.0)
二十	25	10	7	5	0	2	1	-	-	753	30	(3.9)

は比率7%
以上の6巻

は比率6%
未満の9巻

(同志社大學文學部教授)